

■使用評価マニュアル: 北九州市建築物総合環境性能評価制度マニュアル

■使用評価ソフト: CASBEE北九州\_2014(v2.0)

## 1 建物概要

建物名称	(仮称)グランフォーレ古船場町	BEE	0.7	BEEランク	B-	★★
------	-----------------	-----	-----	--------	----	----

## 2 重点項目への取組み度

重点項目	得点 <sup>*</sup> /満点	取組み度	評価
1 循環型社会への貢献	2.8 /5		がんばろう
2 地球温暖化対策の推進	3.6 /5		ふつう
3 豊かな自然環境の確保	1.3 /5		がんばろう
4 高齢社会への対応	1.0 /5		がんばろう

\* 対応するCASBEEのスコア(平均)を5点満点で表示します。(スコア1.0=1点、スコア5.0=5点)

評価 凡例

よい  
4  
点以上



ふつう  
3  
点以上



がんばろう  
3  
点未満



## 3 設計上の配慮事項とCASBEEのスコア

使用CASBEE評価マニュアル: CASBEE-建築(新築) 2016年版

使用CASBEE評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2016(v2.1)

### 1 循環型社会への貢献

スコア平均 2.8

リサイクルに関する配慮	長寿命化に関する配慮
LR2/ 2 非再生性資源の使用量削減	スコア <b>2.9</b> Q2/ 2.2 部品・部材の耐用年数 スコア <b>3</b> Q2/ 3 対応性・更新性 スコア <b>2.6</b>
<自由記述>	<自由記述>

### 2 地球温暖化対策の推進

スコア平均 3.6

省エネ・省資源に関する配慮	節水に関する配慮
LR3/ 1 地球温暖化への配慮	スコア <b>3.2</b> LR2/ 1.1 節水 スコア <b>4</b>
<自由記述>LED照明を使用しています。	<自由記述>節湯水栓、節水型便器を使用しています。

### 3 豊かな自然環境の確保

スコア平均 1.3

生態系保全に関する配慮	緑化に関する配慮
Q3/ 1 生物環境の保全と創出	スコア <b>1</b> Q3/ 3.2 敷地内温熱環境の向上 スコア <b>1</b> LR3/ 2.2 温熱環境悪化の改善 スコア <b>2</b>
<自由記述>	<自由記述>

### 4 高齢社会への対応

スコア平均 1.0

### 主な指標

バリアフリーに関する配慮	建物の外皮性能 (BPI評価) 非住宅:BPI値、住宅:省エネ等級
Q2/ 1.1.3 バリアフリー計画	等級3
<自由記述>	建物の一次エネルギー消費量 (BEI評価) 非住宅:BEIm値、住宅: - 0.62
	外構緑化指数 4.7 %
	建物緑化指数 0 %



: 入力欄

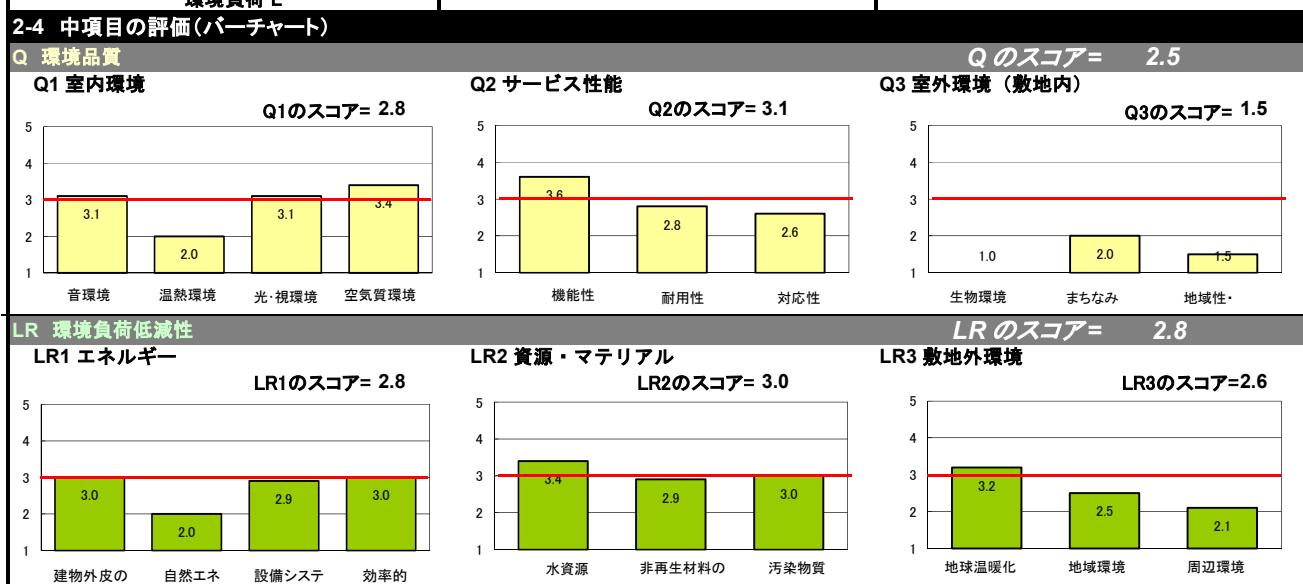
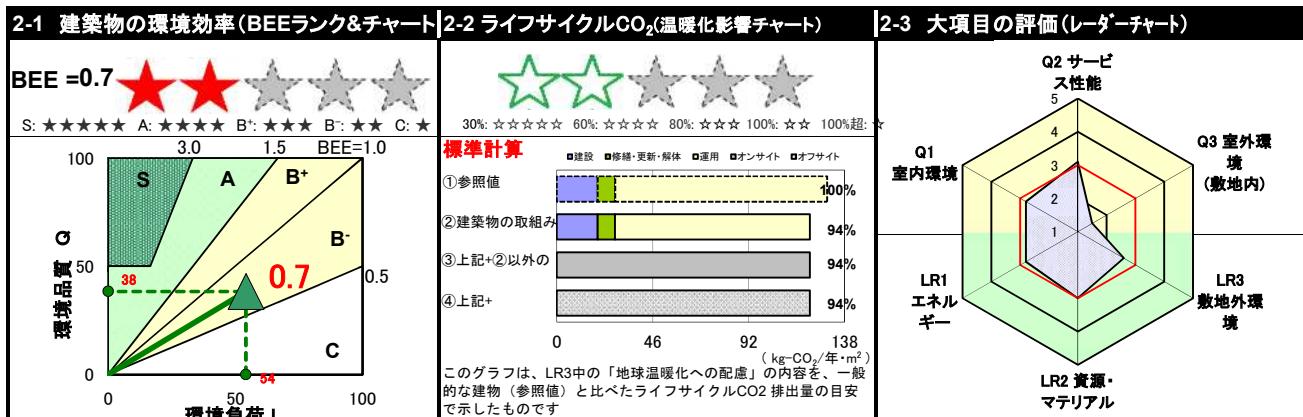


: CASBEE-建築(新築)の採点結果から転記してください。

# CASBEE®-建築(新築) | 評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2016(v2.1)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)グランフォーレ古船場町 新	階数	地上15階
建設地	福岡県北九州市小倉北区古船場町	構造	RC造
用途地域	商業地域、防火地域	平均居住人員	196 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	集合住宅,	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2019年6月 予定	評価の実施日	2019年2月27日
敷地面積	598 m <sup>2</sup>	作成者	中尾 俊平
建築面積	337 m <sup>2</sup>	確認日	2019年3月22日
延床面積	3,903 m <sup>2</sup>	確認者	石川 拓哉



**3 設計上の配慮事項**

**総合**  
空気住環境、機能的な空間作り、敷地内環境、省エネルギー、敷地外環境への配慮にそれぞれ取り組んでおり、低炭素社会の実現に努めている。

**その他**  
特になし。

Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境 (敷地内)
外壁は断熱材を吹付けた防露壁とした。またシックハウス対策はF☆☆☆☆を採用した。	共用廊下、住戸内床は段差をなくし、バリアフリーに対処した。	周辺に配慮した建物高さ、配置を行っている。
LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境
共用部・住戸内とも主要な照明は、LED照明を採用した。また給湯器を潜熱回収型を採用することで省エネルギーに考慮した。	節湯水栓等を採用し、便器も節水型とし水資源に配慮した。	敷地外の歩道に、緑地を新設した。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用・改修・解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと■評価対象のライフケイルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

**CASBEE-建築(新築)2016年版  
(仮称)グランフォーレ古船場町 新築工事**

■使用評価マニュアル CASBEE-建築(新築)2016年版

欄に数値またはコメントを記入

■評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2016(v2.1)

スコアシート 実施設計段階		環境配慮設計の概要記入欄				全体
配慮項目	実施設計段階	評価点	重み係数	評価点	重み係数	
<b>Q 建築物の環境品質</b>						
<b>Q1 室内環境</b>						
<b>1 音環境</b>						
1.1 室内騒音レベル		3.0	0.15	3.2	1.00	3.1
1.2 遮音		3.0	0.50	3.0	0.50	
1 開口部遮音性能	LL-45	3.0	0.50	3.4	0.50	
2 界壁遮音性能	LH-50	3.0	1.00	3.0	0.30	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		-	-	4.0	0.20	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		-	-	4.0	0.20	
1.3 吸音		-	-	-	-	
<b>2 溫熱環境</b>		2.0	0.35	2.0	1.00	2.0
2.1 室温制御		3.0	0.50	3.0	0.50	
1 室温		3.0	0.63	-	-	
2 外皮性能		3.0	0.38	3.0	1.00	
3 ゾーン別制御性		-	-	-	-	
2.2 湿度制御		1.0	0.20	1.0	0.20	
2.3 空調方式		1.0	0.30	1.0	0.30	
<b>3 光・視環境</b>		2.3	0.25	3.3	1.00	3.1
3.1 昼光利用		1.8	0.30	4.0	0.35	
1 昼光率	4.9%～8.6% 平均6.6%	1.0	0.60	5.0	0.50	
2 方位別開口		-	-	3.0	0.30	
3 昼光利用設備		3.0	0.40	3.0	0.20	
3.2 グレア対策		2.0	0.30	3.0	0.35	
1 昼光制御		2.0	1.00	3.0	1.00	
3.3 照度		3.0	0.15	-	-	
3.4 照明制御		3.0	0.25	3.0	0.29	
<b>4 空気質環境</b>		3.0	0.25	3.6	1.00	3.4
4.1 発生源対策		3.0	0.60	4.0	0.63	
1 化学汚染物質	F★★★★の建材を使用	3.0	1.00	4.0	1.00	
4.2 換気		3.0	0.40	3.0	0.38	
1 換気量		3.0	0.50	3.0	0.33	
2 自然換気性能		-	-	3.0	0.33	
3 取り入れ外気への配慮		3.0	0.50	3.0	0.33	
4.3 運用管理		-	-	-	-	
1 CO <sub>2</sub> の監視		-	-	-	-	
2 喫煙の制御		-	-	-	-	
<b>Q2 サービス性能</b>		-	0.30	-	-	3.1
<b>1 機能性</b>		1.4	0.40	4.4	1.00	3.6
1.1 機能性・使いやすさ		1.0	0.40	5.0	0.60	
1 広さ・収納性		-	-	5.0	1.00	
2 高度情報通信設備対応		1.0	1.00	-	-	
3 バリアフリー計画		1.0	0.30	3.5	0.40	
1.2 心理性・快適性		1.0	0.30	4.0	0.50	
1 広さ感・景観	居室の天井高2.5m	-	-	-	-	
2 リフレッシュスペース		1.0	1.00	3.0	0.50	
3 内装計画		2.5	0.30	-	-	
1.3 維持管理		3.0	0.50	-	-	
1 維持管理に配慮した設計		2.0	0.50	-	-	
2 維持管理用機能の確保		-	-	-	-	
<b>2 耐用性・信頼性</b>		2.8	0.30	-	-	2.8
2.1 耐震・免震・制震・制振		3.0	0.50	-	-	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)		3.0	0.80	-	-	
2 免震・制震・制振性能		3.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数		3.0	0.30	-	-	
1 転体材料の耐用年数		3.0	0.20	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		2.0	0.20	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		3.0	0.10	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		3.0	0.10	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔	給水:硬質塩化ビニール管(B) 排水・耐火二層管(B) E:不使用	5.0	0.20	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔		2.0	0.20	-	-	
2.4 信頼性		2.4	0.20	-	-	
1 空調・換気設備		1.0	0.20	-	-	
2 給排水・衛生設備		2.0	0.20	-	-	
3 電気設備		3.0	0.20	-	-	
4 機械・配管支持方法		3.0	0.20	-	-	
5 通信・情報設備		3.0	0.20	-	-	

		2.8	0.30	2.6	1.00	2.6
<b>3 対応性・更新性</b>				<b>2.2</b>	0.50	
<b>3.1 空間のゆとり</b>		-		<b>3.0</b>	0.60	
1 階高のゆとり		-		1.0	0.40	
2 空間の形状・自由さ		-		<b>3.0</b>	0.50	
<b>3.2 荷重のゆとり</b>						
<b>3.3 設備の更新性</b>		<b>2.8</b>	1.00		-	
1 空調配管の更新性			3.0	0.20	-	
2 給排水管の更新性			2.0	0.20	-	
3 電気配線の更新性			3.0	0.10	-	
4 通信配線の更新性			3.0	0.10	-	
5 設備機器の更新性			3.0	0.20	-	
6 バックアップスペースの確保			3.0	0.20	-	
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>		-	<b>0.30</b>	-	-	<b>1.5</b>
<b>1 生物環境の保全と創出</b>			<b>1.0</b>	0.30	-	-
<b>2 まちなみ・景観への配慮</b>			<b>2.0</b>	0.40	-	-
<b>3 地域性・アメニティへの配慮</b>			<b>1.5</b>	0.30	-	-
<b>3.1 地域性への配慮、快適性の向上</b>			<b>2.0</b>	0.50	-	-
<b>3.2 敷地内温熱環境の向上</b>			<b>1.0</b>	0.50	-	-
<b>LR 建築物の環境負荷低減性</b>			-	-	-	<b>2.8</b>
<b>LR1 エネルギー</b>		-	<b>0.40</b>	-	-	<b>2.8</b>
<b>1 建物外皮の熱負荷抑制</b>			<b>3.0</b>	0.20	-	-
<b>2 自然エネルギー利用</b>			<b>2.0</b>	0.10	-	-
<b>3 設備システムの高効率化</b>	[BEI]/[BEIm] = 1.01		<b>2.9</b>	0.50	-	-
<b>4 効率的運用</b>			<b>3.0</b>	0.20	-	-
集合住宅以外の評価			-	-	-	-
4.1 モニタリング			-	-	-	-
4.2 運用管理体制			-	-	-	-
集合住宅の評価			<b>3.0</b>	1.00	-	-
4.1 モニタリング			3.0	0.50	-	-
4.2 運用管理体制			3.0	0.50	-	-
<b>LR2 資源・マテリアル</b>		-	<b>0.30</b>	-	-	<b>3.0</b>
<b>1 水資源保護</b>			<b>3.4</b>	0.20	-	-
<b>1.1 節水</b>			<b>4.0</b>	0.40	-	-
<b>1.2 雨水利用・雑排水等の利用</b>			<b>3.0</b>	0.60	-	-
1 雨水利用システム導入の有無			3.0	1.00	-	-
2 雜排水等利用システム導入の有無			-	-	-	-
<b>2 非再生性資源の使用量削減</b>			<b>2.9</b>	0.60	-	-
<b>2.1 材料使用量の削減</b>			3.0	0.10	-	-
<b>2.2 既存建築躯体等の継続使用</b>			3.0	0.20	-	-
<b>2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用</b>			3.0	0.20	-	-
<b>2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用</b>			3.0	0.20	-	-
<b>2.5 持続可能な森林から産出された木材</b>			2.0	0.10	-	-
<b>2.6 部材の再利用可能性向上への取組み</b>			3.0	0.20	-	-
<b>3 汚染物質含有材料の使用回避</b>			<b>3.0</b>	0.20	-	-
<b>3.1 有害物質を含まない材料の使用</b>			<b>3.0</b>	0.30	-	-
<b>3.2 フロン・ハロンの回避</b>			<b>3.0</b>	0.70	-	-
1 消火剤			-	-	-	-
2 発泡剤(断熱材等)			3.0	0.50	-	-
3 冷媒			3.0	0.50	-	-
<b>LR3 敷地外環境</b>		-	<b>0.30</b>	-	-	<b>2.6</b>
<b>1 地球温暖化への配慮</b>			<b>3.2</b>	0.33	-	-
<b>2 地域環境への配慮</b>			<b>2.5</b>	0.33	-	-
<b>2.1 大気汚染防止</b>			<b>3.0</b>	0.25	-	-
<b>2.2 温熱環境悪化の改善</b>			<b>2.0</b>	0.50	-	-
<b>2.3 地域インフラへの負荷抑制</b>			<b>3.0</b>	0.25	-	-
1 雨水排水負荷低減			-	-	-	-
2 污水処理負荷抑制			3.0	0.33	-	-
3 交通負荷抑制			3.0	0.33	-	-
4 廃棄物処理負荷抑制			3.0	0.33	-	-
<b>3 周辺環境への配慮</b>			<b>2.1</b>	0.33	-	-
<b>3.1 騒音・振動・悪臭の防止</b>			<b>3.0</b>	0.40	-	-
1 騒音			3.0	1.00	-	-
2 振動			-	-	-	-
3 悪臭			-	-	-	-
<b>3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制</b>			<b>1.6</b>	0.40	-	-
1 風害の抑制			1.0	0.70	-	-
2 砂塵の抑制			3.0	0.30	-	-
3 日照阻害の抑制			<b>1.6</b>	0.20	-	-
<b>3.3 光害の抑制</b>			1.0	0.70	-	-
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策			3.0	0.30	-	-
2 曜光の建物外壁による反射光(グレア)への対策			-	-	-	-